

事業完了報告書（足立区教育委員会）

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年6月26日 ~ 令和6年3月15日
調査研究事項	≪委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究≫ IV. その他夜間中学における教育活動充実に関すること 「夜間中学における教育活動の充実に係る調査研究」
調査研究のねらい	(1) 区教育委員会教育相談課やNPO法人カタリバ等と連携し、学齢の不登校生徒の学びの場としての夜間中学の活用について研究する。 また、日本語を母語としない生徒の高校進学を支援し、夜間中学の教育を貧困の連鎖の遮断、多文化共生社会の実現に活かすことを目指していく。 (2) 高齢生徒の移動負担、また、全ての生徒の経済的負担の軽減を図りつつ、体験活動等でより充実した教育効果を挙げ得る校外学習の在り方について、研究する。 (3) 日本語を母語としない生徒が多い本校の実情も踏まえ通訳などの外部指導員を有効活用し、生徒の理解を促進し、学びを深めると共に、教員の負担軽減にも資する教育活動の在り方について研究する。

調査研究の内容	<p>(1) 当区で不登校問題を所掌する教育委員会教育相談課と連携し登校時の安全確保、不定期な登校における学習支援の在り方や、行事への参加方法等、学齢の不登校生徒の学びの場としての夜間中学の活用について検証する。NPO法人カタリバは昨年度「居場所を兼ねた学習支援事業」を受託した他、現在も「10歳代の出番づくり」に取り組んでいる。昨年度においてはカタリバによる授業中のサポート実施など、他機関との協働体制を構築したことによって、学齢の不登校生徒に対するアプローチ方法といった新たな知見を得た。一方で、本籍ではない夜間中学故に生徒の通学が不定期になるなど、課題も判明したところである。今年度は昨年度に得たノウハウのさらなる活用や課題解決方法の探求など、継続的な調査・研究を進める。</p> <p>(2) 年2回ずつ、足立区内中学校35校を訪問し、校長らとの意見交換を通して不登校の状況を把握するとともに、過去の事例などを踏まえた学齢期の不登校生徒の夜間学級への適性等を共有する。加えて、令和2年度に開設した日本語を母語としない中学生の通級施設「あだち日本語学習ルーム」との連携により、中学卒業と同時に高校進学が叶わなかった生徒が、夜間中学を経て高校進学を果たす流れを確立する等、外国籍生徒の高校進学支援の充実についても研究していく。</p> <p>(3) 複数の通訳者等を確保し、授業補助は勿論、生徒の行事への積極参加を促し、更には行事の企画・設計等に生徒の意見を反映させる事で生徒の学校生活、学校教育の充実を図る仕組み創りを研究する。また通訳を介した教育相談を不定期実施し、学習上や生活上の困難を改善し、指導を充実させる取組みを探求する。</p> <p>(4) 校外学習は全生徒にとって特別な体験を与えるものであり、特に日本語を母語としない生徒に対しては新たな知見を与える、生徒本人の充実した成長に大いに効果を発揮する機会である。校外学習においてバスを借り上げることで、高齢生徒の移動負担を軽減すると共に、生徒の経済的負担を増やすことなく移動時間を短縮させ、見学場所を増やし、体験活動もより充実するよう取り組む。見学場所や体験の内容は、生徒達の成長に資するよう、戦略的に精選し、より有意義な学習となるよう計画・実施する。また実施の成果と把握した課題を、次年度の計画に確実にフィードバックし、充実のサイクルを構築することについても探求していく。</p> <p>(5) 校内研修では、ICT機器の使用法や授業などでの活用法など基本的な研修を実施する。ICT支援員を招いて、実演を踏まえな</p>
---------	---

調査研究の成果	<p>がら研修を行う。</p> <p>(6) 自校作成の日本語教材の見直しを行い、生徒にとって理解しやすく学習しやすい内容へ改訂する。特に、各教員が会話の指導で使用している資料を統合し、1冊ですべての習熟度に対応した指導ができる教材の作成に取り組む。また、生徒一人一台端末 (Chromebook) を使用し、この自主教材に準拠した日本語のデジタル教材の作成を行うこととし、今回は「にほんご1」「にほんごれんしゅう1」のデジタル単語帳を作成の上で、Chromebookで生徒が活用できるようにする。</p> <p>昨年度に引き続き、各領域・分科会報告や配布資料を活用し、他地区における指導法などを学び、自校での指導に活かした。また不登校経験のある生徒の気持ちや生徒を支える家庭や魅力ある学校づくりについて学び、教員の資質向上を図った。さらに、校内研修会を実施し、今後の夜間中学のあり方について共通理解を図った。</p> <p>また、自主教材に準拠した日本語のデジタル教材作成やICT機器の活用法研修など、生徒の個別最適な学びに寄与する調査研究が実施出来た。</p>
調査研究の方法	<p>夜間学級所属の教員を4つの担当班に分けて、研究計画作成、調査研究等を行い、報告書(成果物)を作成する。</p> <p>① 広報・入学相談班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学案内を利用した効果的な広報と相談活動のあり方を研究する。 ・区立中学校(全35校)訪問計画と不登校生徒の実態調査と報告を行う。 <p>② 校内研修計画班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習でのバス借り上げによる効果を検証する。 ・先進校・新設の夜間中学校視察計画と報告を行う。 ・校内研修の計画とまとめを行う。 <p>③ 外部指導員配置班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部指導員活用法について研究する。 ・翻訳機器の効果的な使用法について研究する。 <p>④ 教材作成班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自校作成の日本語教材の見直しを行い、生徒にとって理解、学習しやすい内容へ改訂する。今年度は、会話で使用している資料を統合し、

一冊ですべての習熟度に対応した指導ができる教材を作成する。

- ・自主教材に準拠した日本語のデジタル教材を作成する。

調査研究の年間計画	
4月	○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用）
5月	○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用）
6月	○校内研修会（職員会議にて） <ul style="list-style-type: none"> ・年間の調査研究事項の確認 ・調査研究計画作成 ・研究組織作成 ①広報・入学相談 ② 校内研修計画 ③ 外部指導員配置 ④教材作成 ○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用） ○教材作成班会（分担決め） ○校内研修（ICT 支援員による指導）
7月	○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用） ○教材作成班会
8月	○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用） ○教材作成班会
9月	○校外学習（修学旅行の実施） ○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用） ○足立区内中学校訪問
10月	○中間報告会 （足立区教育委員会担当者を含めた校内での報告を行う。また、必要に応じて東京都夜間中学校研究会での報告会を探る。） ○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用） ○教材作成班会（検討） ○校内研修（ICT 支援員による指導） ○足立区内中学校訪問
11月	○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用）
12月	○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用） ○教材作成班会
1月	○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用） ○教材作成班会
2月	○研究の成果と課題のまとめ ○研究のまとめ（研究冊子作成） ○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用）
3月	○足立区立第四中学校夜間学級 PR 活動（駅情報スタンド利用）